

鳥獣保護管理政策の現状と 行政上の諸対策について

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室
岩本 千鶴

2023年 6 月22日 農作物鳥獣被害防止対策研修

鳥獣保護管理政策の現状と行政上の諸対策について

- 0. はじめに（鳥獣による影響及び鳥獣の現況）
- 1. 鳥獣保護管理法制の体系と沿革
- 2. 抜本的な鳥獣捕獲強化対策と平成26年度法改正
- 3. 改正鳥獣法を踏まえた管理の強化
- 4. 最近のトピック & 情報提供

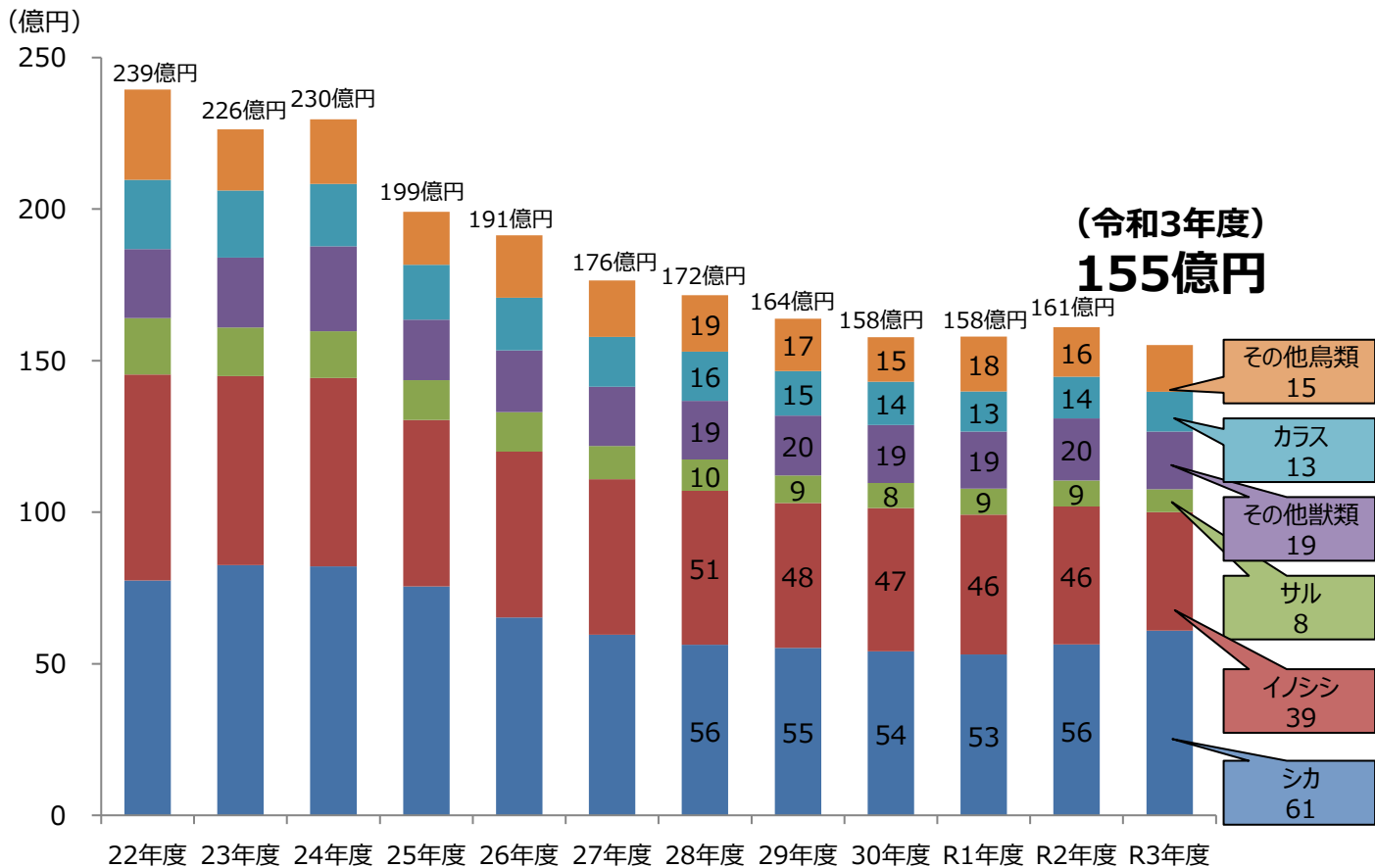
鳥獣保護管理政策の現状と行政上の諸対策について

0. はじめに（鳥獣による影響及び鳥獣の現況）

1. 鳥獣保護管理法の体系と沿革
2. 抜本的な鳥獣捕獲強化対策と平成26年度法改正
3. 改正鳥獣法を踏まえた管理の強化
4. 最近のトピック & 情報提供

はじめに… 野生鳥獣を取り巻く現況（農作物被害）

○ 野生鳥獣による農作物被害額は**155億円**（令和3年度）。
全体の約7割がシカ、イノシシ、サル。



シカに食害されたダイズ



イノシシによる水稻の踏倒

【出典】「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について」（農林水産省）

はじめに… 野生鳥獣を取り巻く現況（生態系被害）

北岳

2006年

2007年

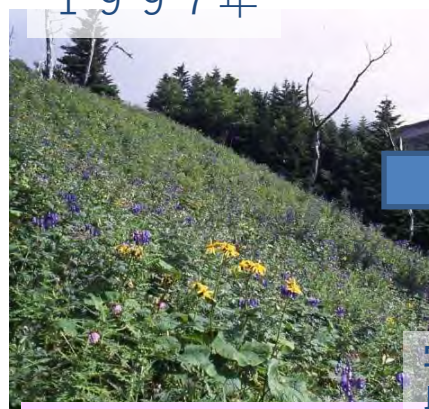


1年で林床の下層植生が消失

聖岳

1997年

2007年



写真提供：中部森林管理局元島氏

シカが好まない植物ばかりに

1979年

塩見岳

2005年



写真提供：
静岡大学増沢武弘教授



写真提供：
鵜飼一博氏

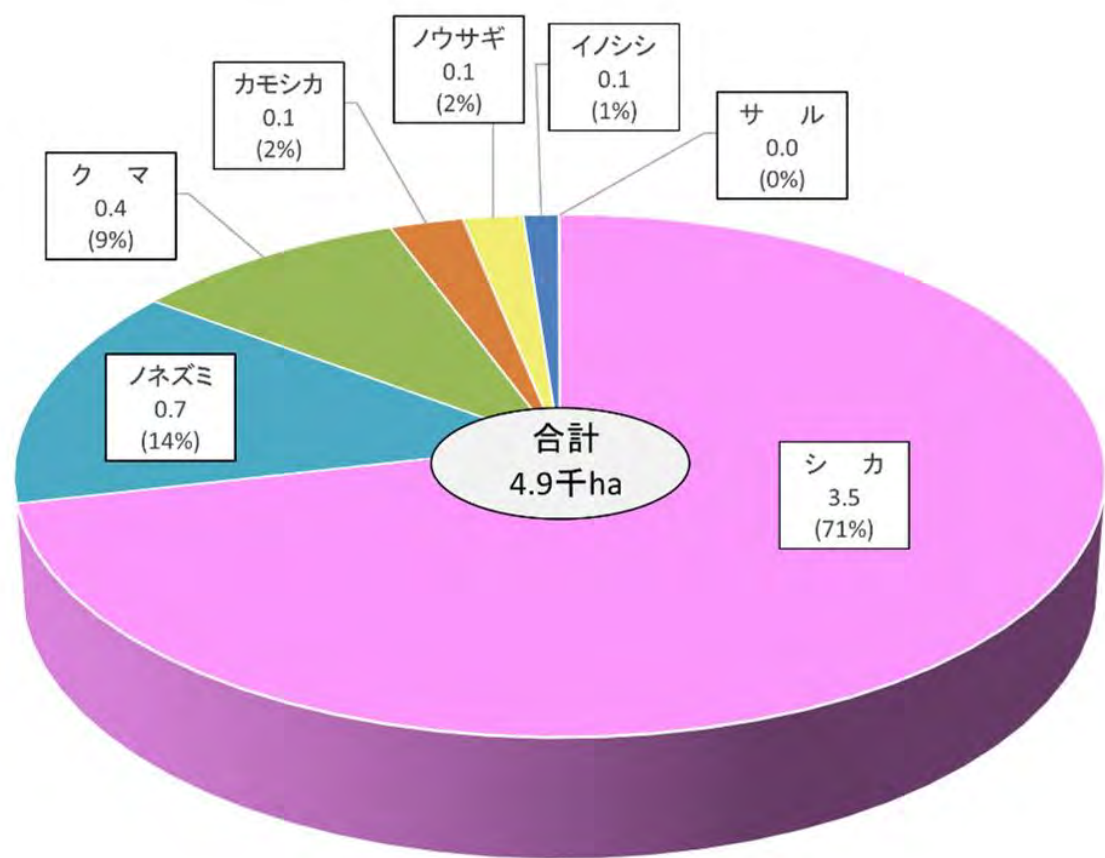
高山のお花畑が消失

2020年 鳳凰三山・地蔵岳



下層植生が失われ土壌流出

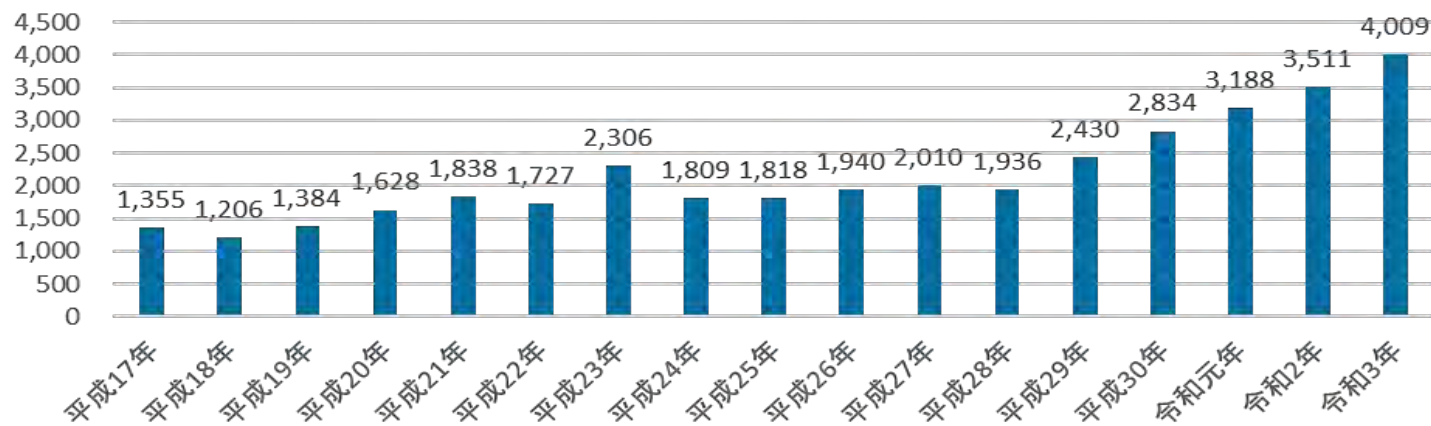
主要な野生鳥獣による森林被害面積（令和3年度）
（都道府県からの報告による、民有林及び国有林の被害面積の合計）



はじめに… 野生鳥獣を取り巻く現況（生活環境被害①）

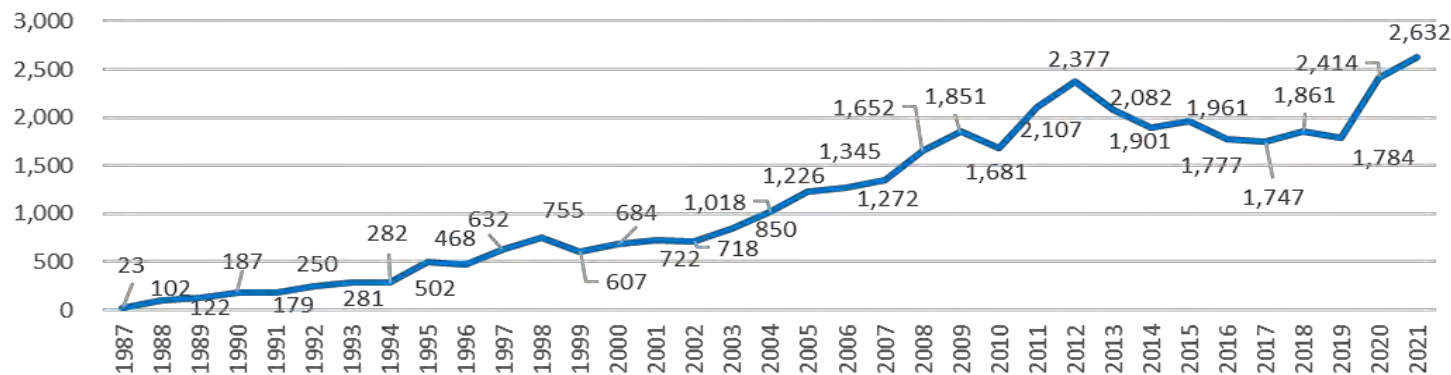
- 鳥獣と列車や自動車との衝突事故等、鳥獣による被害は生活に密着した問題にも拡大しつつある。
- 高速道路では、クマ、シカ、イノシシ等の衝突事故は令和2年度2300件確認（東日本、中日本、西日本、本四高速道路株式会社調べ）

シカが関連する交通事故発生件数(北海道内)



北海道警察本部資料
から作成

JR北海道におけるエゾシカとの衝突件数



JR北海道資料から資料

はじめに… 野生鳥獣を取り巻く現況（生活環境被害②）

- クマ類の出没件数は、秋期の主要な食糧となるブナ等の堅果類の豊凶に左右される傾向が見られる。
- 人身被害は、山菜・キノコ採り等での被害が最も多く発生しているが、農作業中の被害のほか、人の生活圏、市街地でも発生している

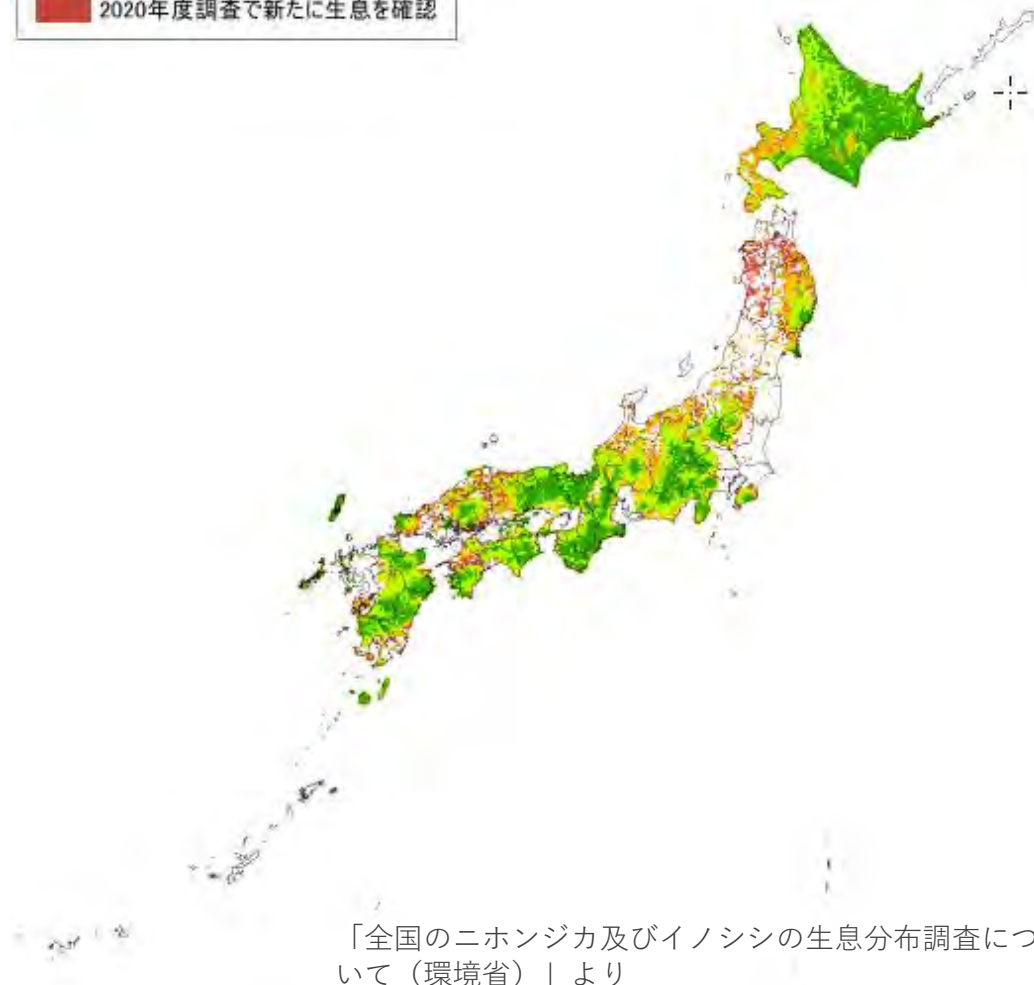


年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
死亡者数	2	4	2	1	2	2	0	4	2	0	1	2	4	2

はじめに… ニホンジカの分布域の拡大

※1978年(昭和53)年から2018
(平成30)年の40年間で分布域は、
約2.7倍に拡大

2014(平成26)年から2018(平成
30)年で、
東北、北陸、中国地方を中心
に約1.1倍に拡大。



はじめに… イノシシの分布域の拡大

※1978年（昭和53）年から2018（平成30）年の40年間で分布域は、**約1.9倍**に拡大。

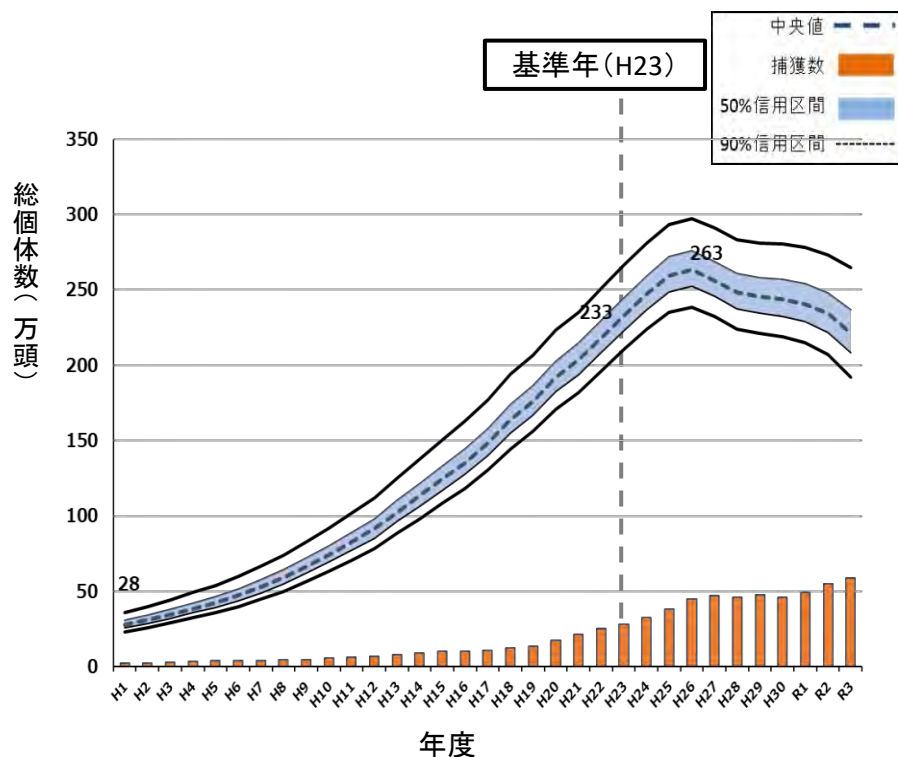
2014（平成26）年から2018（平成26）年の3年間で、東北、北陸、関東地方を中心に約1.1倍に拡大。



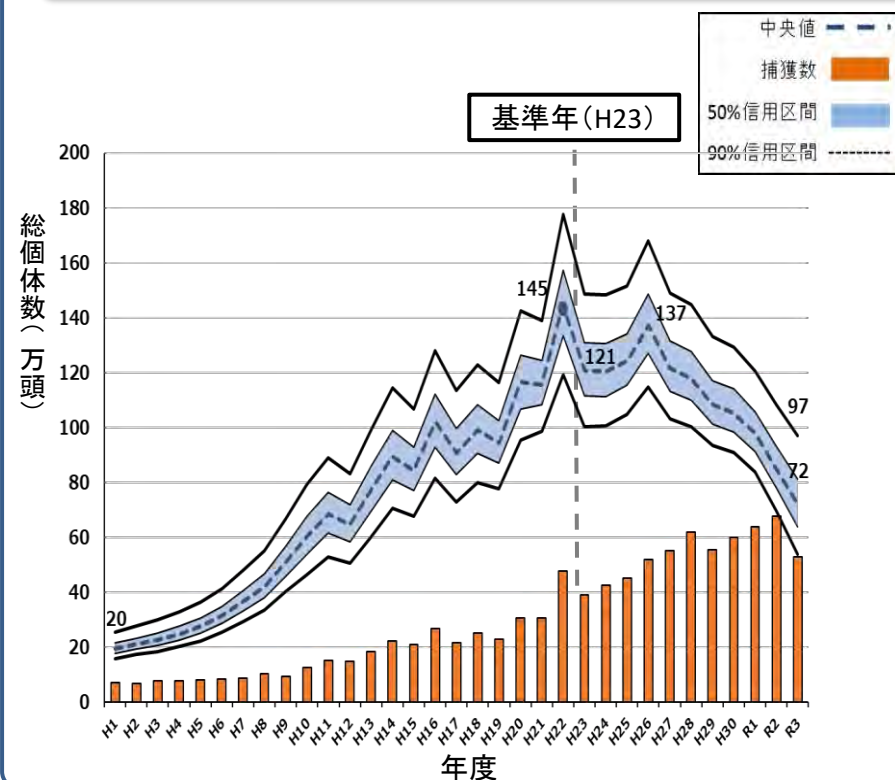
はじめに… 野生鳥獣を取り巻く現状（ニホンジカとイノシシの個体数推定）

- 捕獲数等の全国的に入手可能なデータを元に2021年度（令和3年度）時点の個体数を推定。
- ニホンジカ（本州以南※₁）は中央値で約222万頭（90%信用区間：約192～265万頭）、イノシシは約72万頭（90%信用区間：約54～97万頭）。
- 2014年度（平成26年度）をピークに、個体数は減少傾向にあるが、半減目標の達成のためには、引き続き、捕獲強化が必要。

ニホンジカ（本州以南）の推定個体数の推移



イノシシの推定個体数の推移



※1 北海道では、独自の推定方式で計算していることから合算していない。令和3(2021)年度の北海道の推定個体数は、東部地域31万頭、北部地域18万頭、中部地域20万頭、南部地域3～20万頭(北海道資料)

※2 令和3(2021)年度の自然増加率の推定値は、シカは中央値1.20(90%信用区間:1.17-1.23)、イノシシは、中央値1.47(90%信用区間:1.29-1.64)

※3 新たな捕獲実績等のデータを追加してこれまでの個体数を推定するため、過去に遡って推定値が見直される。このため、今後の推定個体数も変化する可能性がある。

はじめに… ニホンザルの分布域の拡大

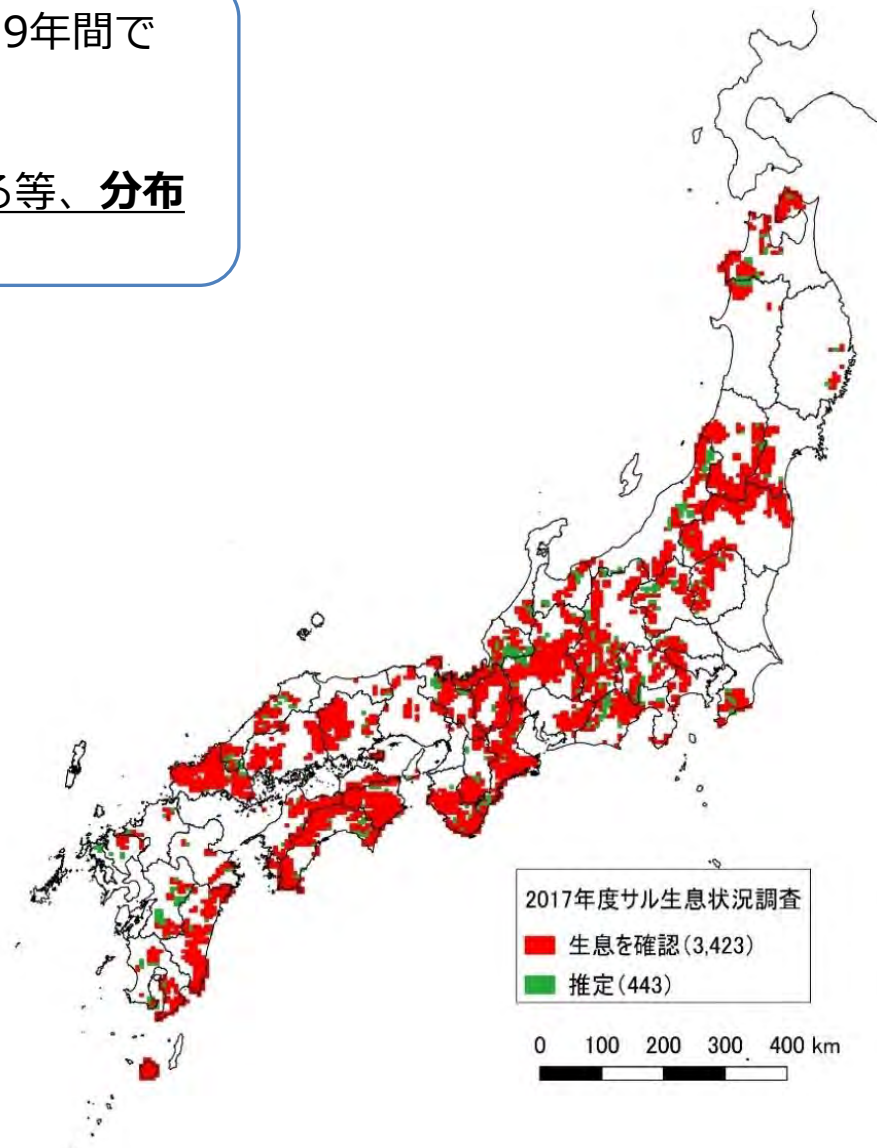
○1978年（昭和53）年から2017（平成29）年の39年間で分布域は、**約1.7倍**に拡大。

○特に、**東北地方で2.3倍、関東地方で1.9倍**になる等、**分布拡大**が顕著。

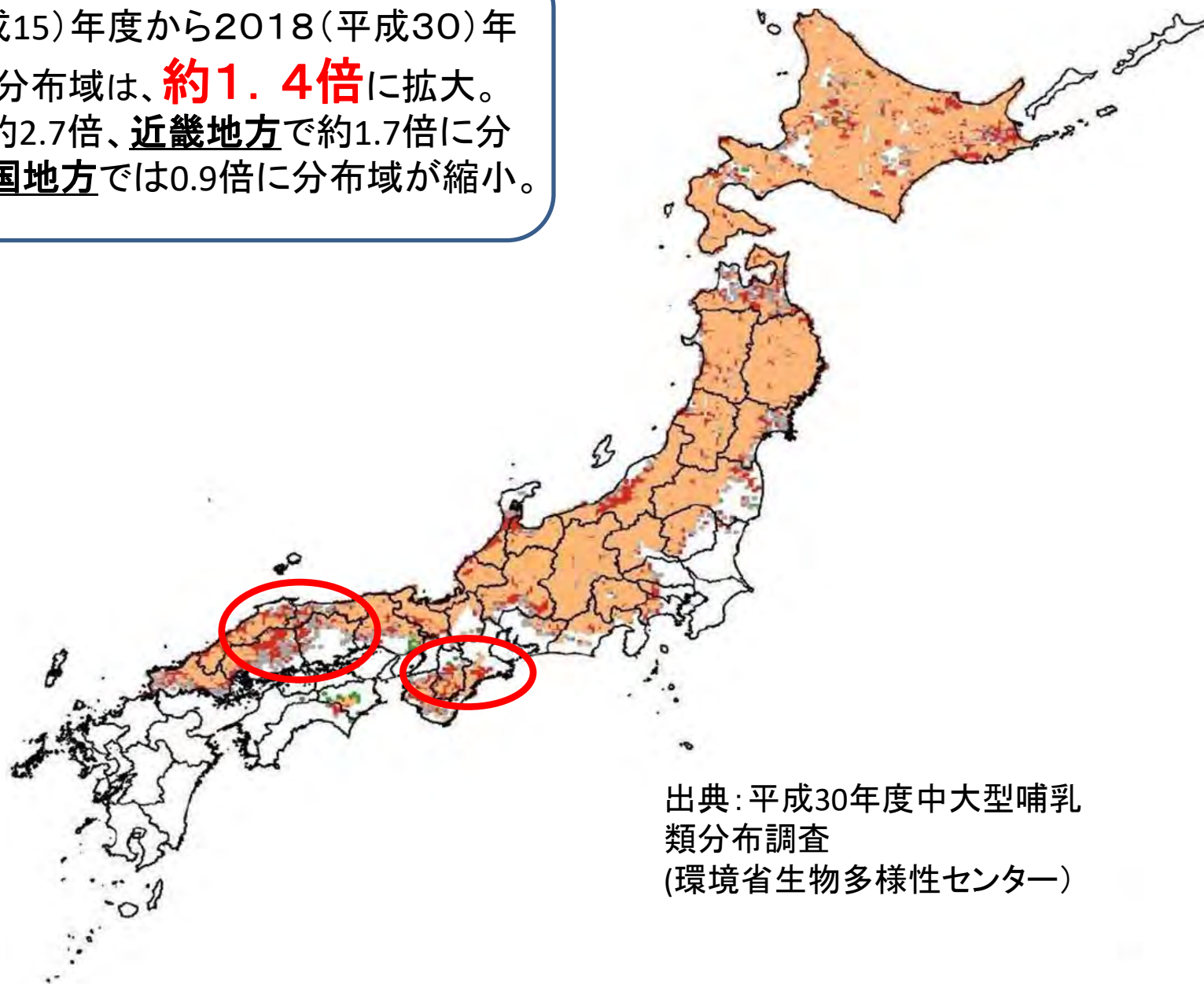
※ニホンザルの分布メッシュ数

	1978年	2003年	2015年	2017年
確実な生息	2,288	3,471	3,198	3,423
推定生息			493	443
合計	2,288	3,471	3,691	3,866
1978年比		1.517倍	1.613倍	1.690倍
2003年比			1.063倍	1.114倍
2015年比				1.047倍

2003年以降では横ばい傾向



- 2003年（平成15）年度から2018（平成30）年度の15年間で分布域は、**約1.4倍**に拡大。
- 中国地方で約2.7倍、近畿地方で約1.7倍に分布域が拡大。四国地方では0.9倍に分布域が縮小。



出典：平成30年度中大型哺乳
類分布調査
(環境省生物多様性センター)